混乱を緩和することにした。

其処で十一月廿日、第二次会議に於て——本評議会の代表四名中村義明君、杉浦啓一君、渡辺政之輔君、中尾勝男君、十月廿日第十一回中央常任委員会にて決定——中村義明君が「一日も早く単一政党の成立を望む故に涙を吞んで一先袂を分つ」と挨拶し、無産労働の党谷宗治氏は「評議会の此の犠牲的行為には謝すべき言葉を知らぬ。又之れに謝する道は、一日も早く単一政党を作る事である」との意味の答辞あり、悲壮な一場面を遺して本評議会の代表は退席した。

その翌日、十二月一日、遂に本評議会及総同盟以外の団体は、再建に結党式を挙行し、党名を農民労働党とした。

尚、此の結党式に於て、評議会と総同盟が再び、復帰することを望むとの決議があつた。然るに、斯く万難を排した努力も空しく結党三時間後、内務大臣より結党禁止の命令が来た。

各団体とも挙げて、此の禁令に憤激したが如何せん、大規模の反対運動も起す能はざる状態であつた。又ひとり日本農民組合は、直ちにその翌日声明書を発して再組織運動に着手するを言明した。

（再組織運動）

再組織運動に就いては、十二月下旬日本農民組合の山上武雄、桑英吉両氏の斡旋を受けて意見の交換を為した。

其の斡旋の主旨は先づ総同盟と評議会を除いて、第一回の懇談をしたいとの事であり、吾等もこれに賛意を表した。

然るに其後、日本農民組合の代表者氏が、総同盟等と交渉せられた結果、大体、総同盟を加へ、評議会を除いて第一回の懇談会は大正十五年一月十五日、大阪に於て、日本農民組合の山上氏、官業の川村氏等が主催者となつて開かれた。当日参加したのは、総同盟、製鉄同盟、組合同盟、総同盟、官業、農民組合等であつた。そして当日の主催者は「一致して無産政党樹立を期す」との提案があつた。

丁度評議会に於ては、本評議会の中央委員長より政党問題に対する諸般の処置を委嘱されてゐた中村義明の両名は日本農民組合を通じて評議会は遠慮したい。それは総同盟の反対を受けることも予想されるので、評議会は遠慮しつゝ、ある事は明らかに観取し得られる。故に本評議会が参加すれば総同盟は又直ちに、その準備運動を混乱破壊せしめんともする事実を知つて、此の政党準備運動に波及はすであらう。本評議会との対立を予想するので、此の実状前の